

神通川水系河川整備計画の 整備内容（案）の概要

1. 工事に関する事項

1-1. 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

1-2. 河川環境の整備と保全に関する事項

1-1. 洪水等による災害の発生の防止 又は軽減に関する事項

- (1) 洪水を安全に流下させるための対応・
堤防の安全性確保のための対応
- (2) 地震・津波対策
- (3) 減災の取り組み

(1) 洪水を安全に流下させるための対応・堤防の安全性確保のための対応

◆ 現状と課題

- 計画高水流量規模が流れた場合は、神通川・井田川・熊野川の国管理区間で計画高水位（HWL）を上回る区間が生じることから、今後も流下能力を向上させることが必要
- 神通川は急流河川のため、大規模洪水でなくとも河岸侵食等が発生し、堤防の決壊につながる恐れがあることから、急流河川特有の洪水流の強大なエネルギーに対する堤防の安全性の確保が必要

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 着実に進めている洪水氾濫を未然に防ぐ対策の推進

◆ 整備計画における目標の考え方

- 過去の水害の発生状況、流域の重要度、これまでの整備状況等を総合的に勘案し、神通川水系河川整備基本方針に定めた目標に向けて、上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実に河川整備を実施し、洪水等による災害の発生防止又は軽減を図る
- 本整備計画に定める河川整備を実施することで、戦後最大規模の洪水と同規模の洪水に対して、洪水氾濫による浸水被害の防止又は軽減を図ることが可能となる
【神通川：神通大橋地点で6,700m³/s、井田川：高田橋地点で1,450m³/s、熊野川：八幡橋地点で700m³/s】
- 急流河川特有の洪水流の強大なエネルギーに対する堤防の安全性を確保するため、堤防及び河岸の侵食対策、河床の洗掘対策等の急流河川対策を実施し、侵食等による堤防の決壊の防止を図る

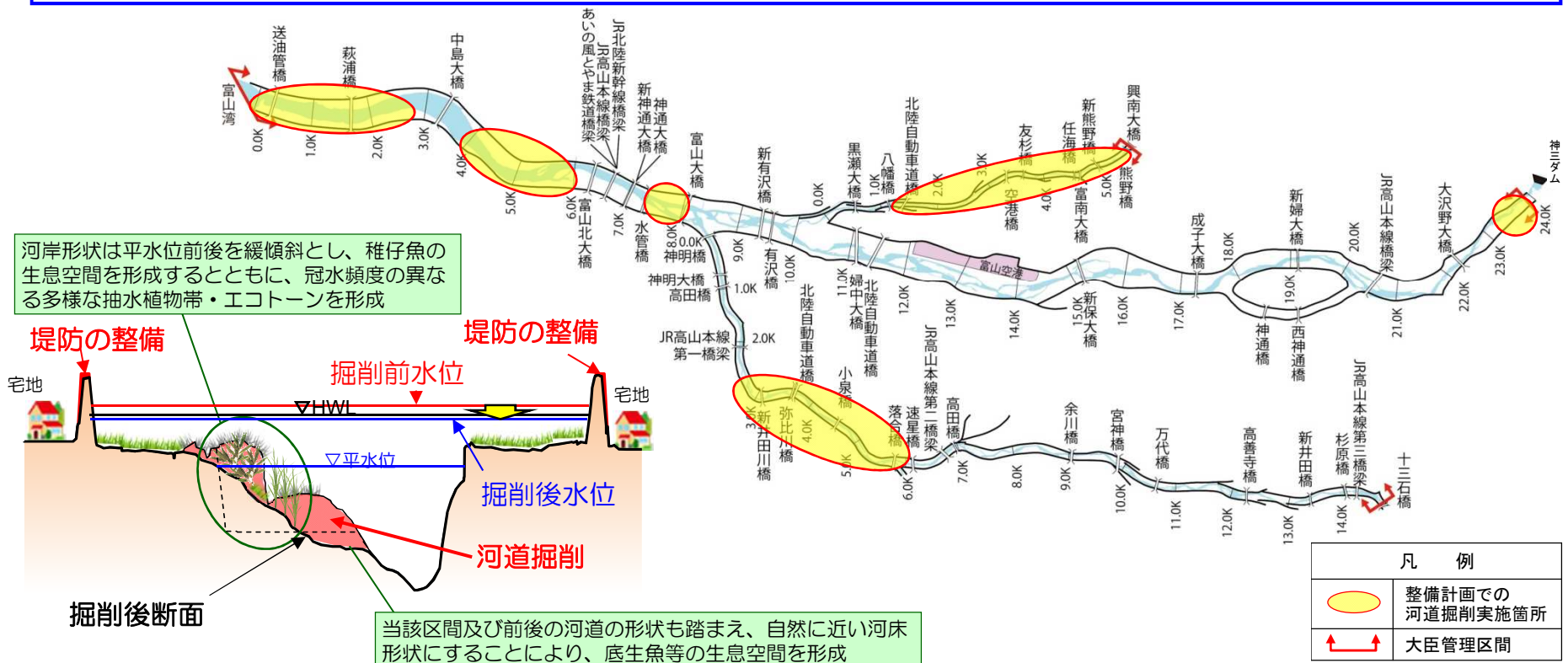
◆ 整備内容（案）（工事）

1. 堤防の整備、河道掘削
2. 急流河川対策
3. 堤防の質的整備
4. 工作物の改築

1.堤防の整備、河道掘削

(1)洪水を安全に流下させるための対応・堤防の安全性確保のための対応

- ◆ 堤防の整備を実施しても河道整備目標流量流下時の水位が計画高水位（HWL）を超過する区間については、河道掘削により必要な河積の確保を図る。
- ◆ 実施にあたっては、河床材料や底質、水生生物の生息・繁殖環境の変化を最小限に留める等、平水時の河川環境を大きく改変しないよう、河岸の自然環境に十分配慮する。



堤防の整備・河道掘削とその効果（イメージ）

※施工場所は、今後の水害発生や詳細な調査の実施により変更となる場合がある。

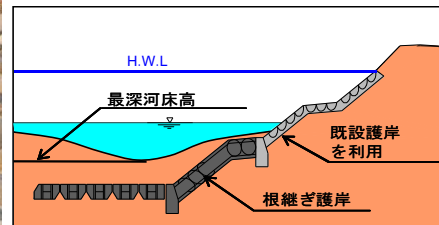
2.急流河川対策

(1)洪水を安全に流下させるための対応・堤防の安全性確保のための対応

- ◆ 神通川は急流河川であるため、大規模洪水でなくとも河岸侵食等が発生し、堤防の決壊につながる恐れがある。このため、急流河川対策として、護岸の新設、護岸工の根継ぎ、根固め工の新設等の整備を実施する。
- ◆ 神通川は、洪水等により絶えず濡筋が変化することから、適切に危険箇所及び緊急度の見直しを行う。



近年の被害状況 (H16.10洪水)



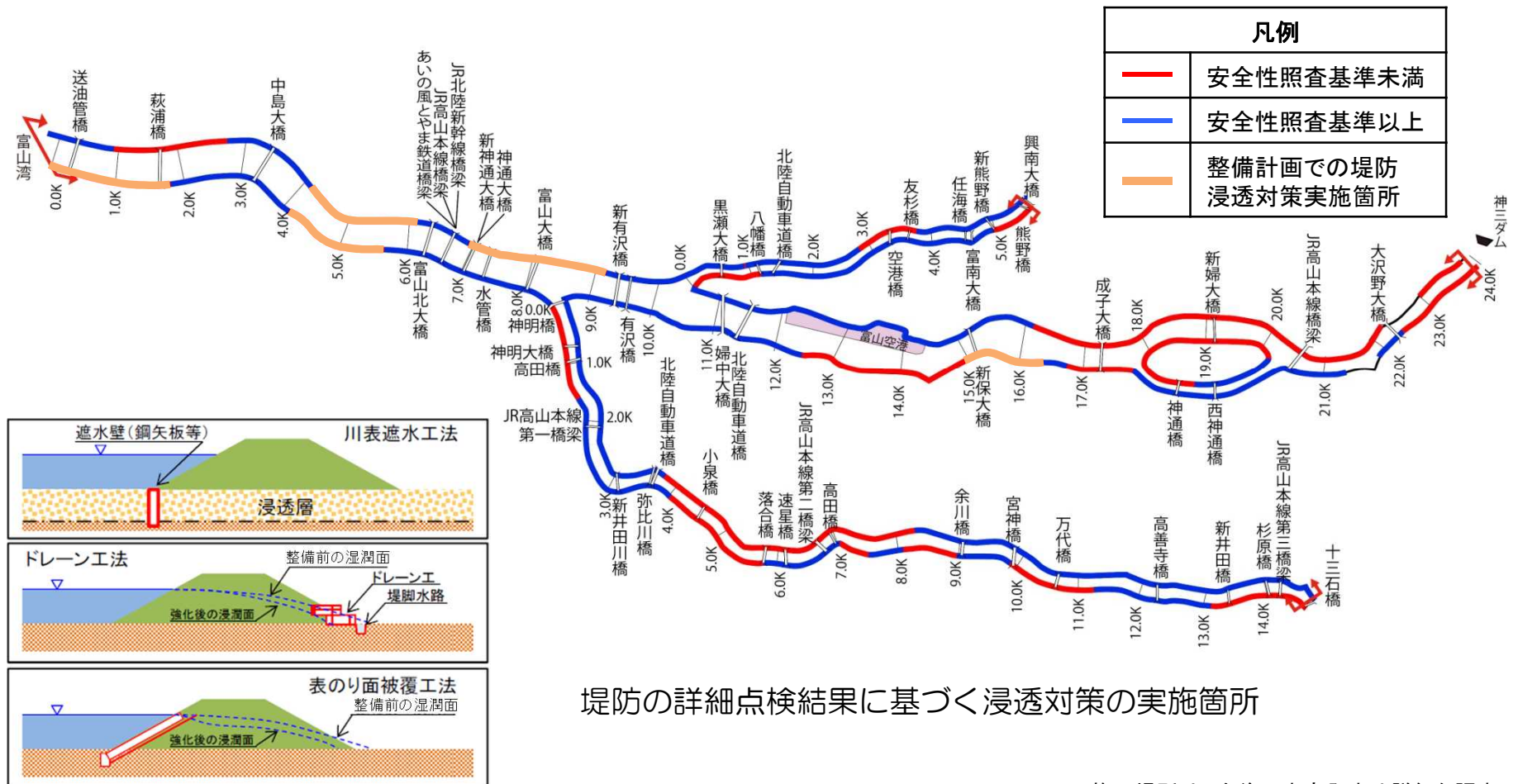
急流河川対策のイメージ

※施工場所は、今後の水害発生や詳細な調査の実施により変更となる場合がある。

3.堤防の質的整備

(1) 洪水を安全に流下させるための対応・堤防の安全性確保のための対応

◆ 浸透に対する安全性の確保が必要となる区間について、堤防の整備と併せて、浸透対策を実施し安全性を確保する。



堤防の詳細点検結果に基づく浸透対策の実施箇所

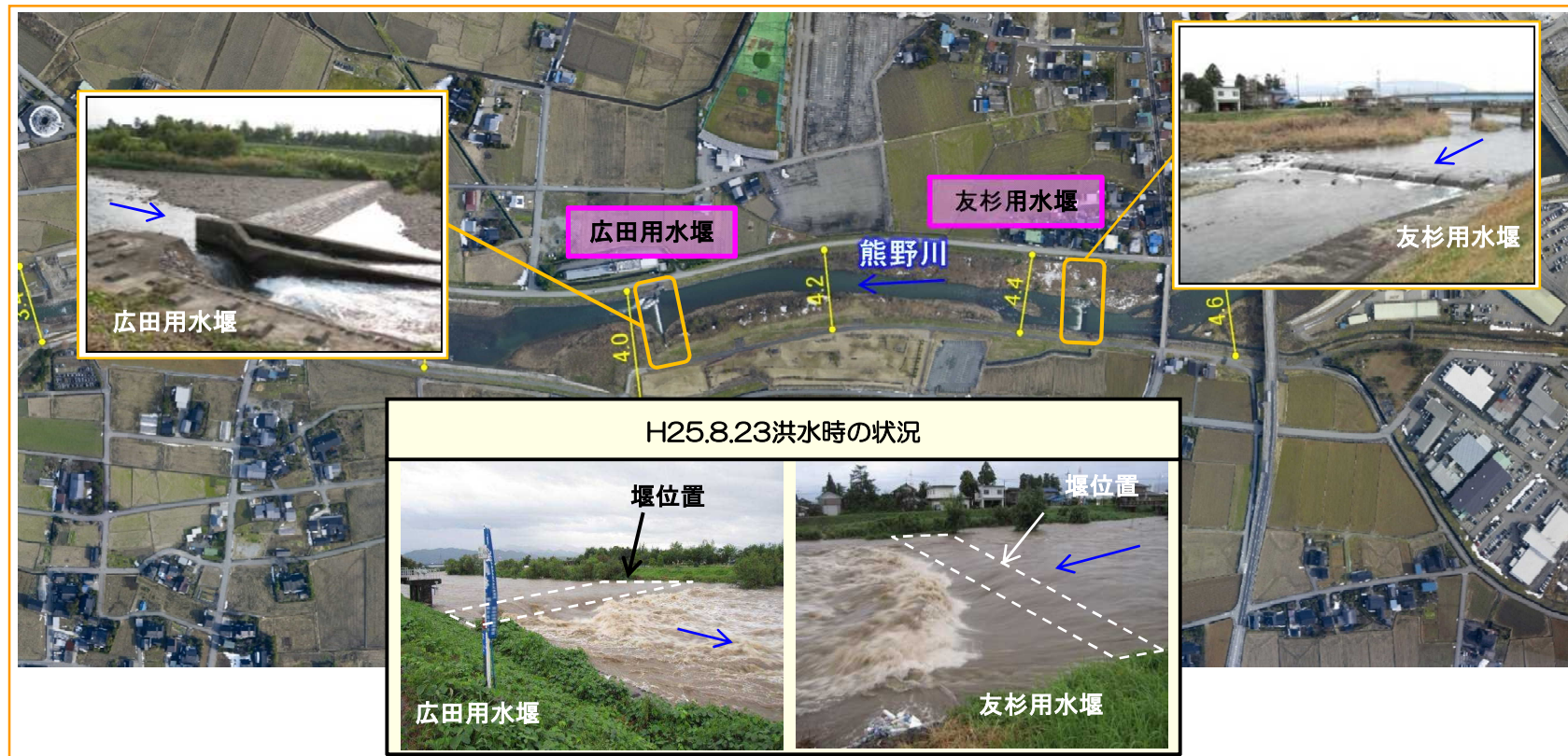
浸透対策のイメージ

※ 施工場所は、今後の水害発生や詳細な調査の実施により変更となる場合がある。

4. 工作物の改築

(1) 洪水を安全に流下させるための対応・堤防の安全性確保のための対応

- ◆ 洪水の安全な流下に支障となる場合など治水面で課題を有する取水堰について、関係機関と調整し改築等を行う。
- ◆ 洪水の安全な流下に支障となる橋梁については、引き続き施設管理者と改善等の協議・調整を図るとともに、許可工作物の定期点検において指導を行う。



(2) 地震・津波対策

◆ 現状と課題

- 東日本大震災では、堤防・護岸等の河川管理施設に甚大な被害が発生するとともに、河川を遡上した津波が河川堤防を超過して沿川地域に甚大な被害が発生
- 大規模な地震動が発生した場合においても、河川管理施設として必要な機能が確保されるよう、調査・耐震補強等の実施が必要



◆ 整備計画における目標の考え方

- 堤防等の河川管理施設の耐震性能を照査したうえで、必要に応じて耐震対策を実施し、大規模な地震動が発生した場合においても、河川管理施設として必要な機能を確保する
- 施設設計上の津波の設定を踏まえて、神通川における計画津波の水位を設定する



◆ 整備内容（案）（工事）

5. 地震・津波対策

5.地震・津波対策

- ◆ 東北太平洋沖地震後の河川堤防の耐震対策に関する技術的知見も踏まえた地震等に対する堤防の耐震性能照査を行い、地震発生後においても河川管理施設が所要の機能を発揮できるように、必要に応じて対策を実施する。
- ◆ 海岸管理者において検討される施設計画上の津波の設定を踏まえ、津波遡上の危険性がある区間では、津波に対する施設照査を実施し、必要に応じて対策を実施する。



鳴瀬川の被災事例
しもなかのめ
(宮城県大崎市下中ノ目地先)

国土交通省 東北地方整備局



耐震対策実施事例
(神通川右岸)

(3) 減災の取り組み

◆ 現状と課題

- 全国各地で豪雨が頻発・激甚化しており、様々な事象を想定し対策を進めていくことが必要
- 平成27年9月関東・東北豪雨を契機として、神通川では概ね5年間で優先的に整備が必要な区間を設定し、堤防の決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する「危機管理型ハード対策」等を実施している

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 万が一（施設では守りきれない洪水）に備えるための減災に関する取組の推進
- 洪水氾濫に対し、事前の計画・体制、施設による対応が備えられた社会の構築

◆ 整備計画における目標の考え方

- 計画規模を上回る洪水や整備途上において施設能力を上回る洪水等が発生した場合においても、人命・資産・社会経済の被害をできる限り軽減することを目標として、施設の構造等や運用等を工夫するとともに、関係機関と連携して、円滑かつ確実な避難や的確な水防活動の促進、迅速な応急活動の実施、水害リスクを考慮した地域づくりの促進を図ることにより、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進する

◆ 整備内容（案）（工事）

6. 危機管理型ハード対策

◆ 整備内容（案）（維持管理）

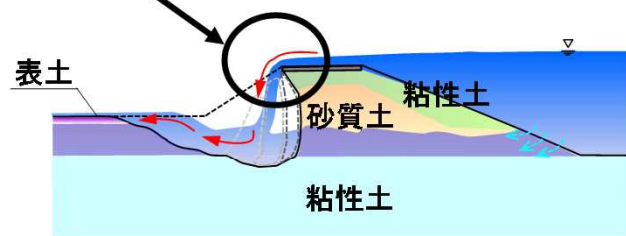
7. 霞堤の機能維持、保全
8. 洪水氾濫に備えた社会全体での対応
（住民等の主体的な避難の促進、的確な水防活動の促進 等）

6. 危機管理型ハード対策

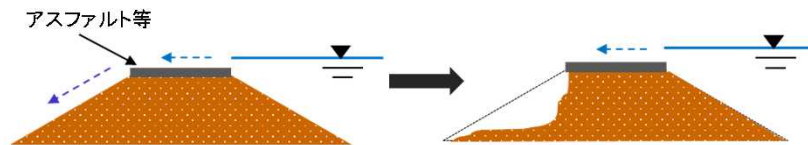
- ◆ 整備途上段階での施設能力以上の洪水や整備計画規模以上の洪水が発生し、氾濫した場合においても、被害を最小限にとどめるため、堤防の決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する「危機管理型ハード対策」を実施する。

堤防天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす

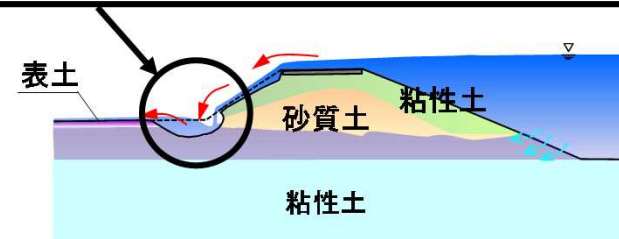


堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。

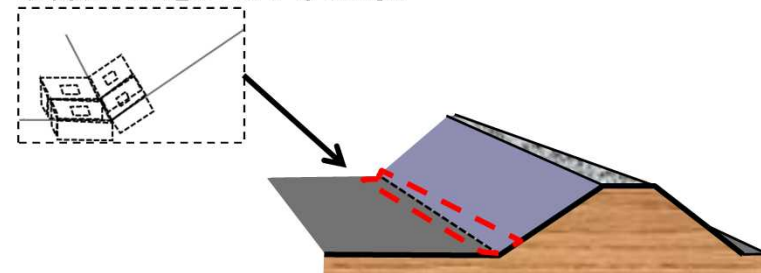


堤防裏法尻の補強

裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



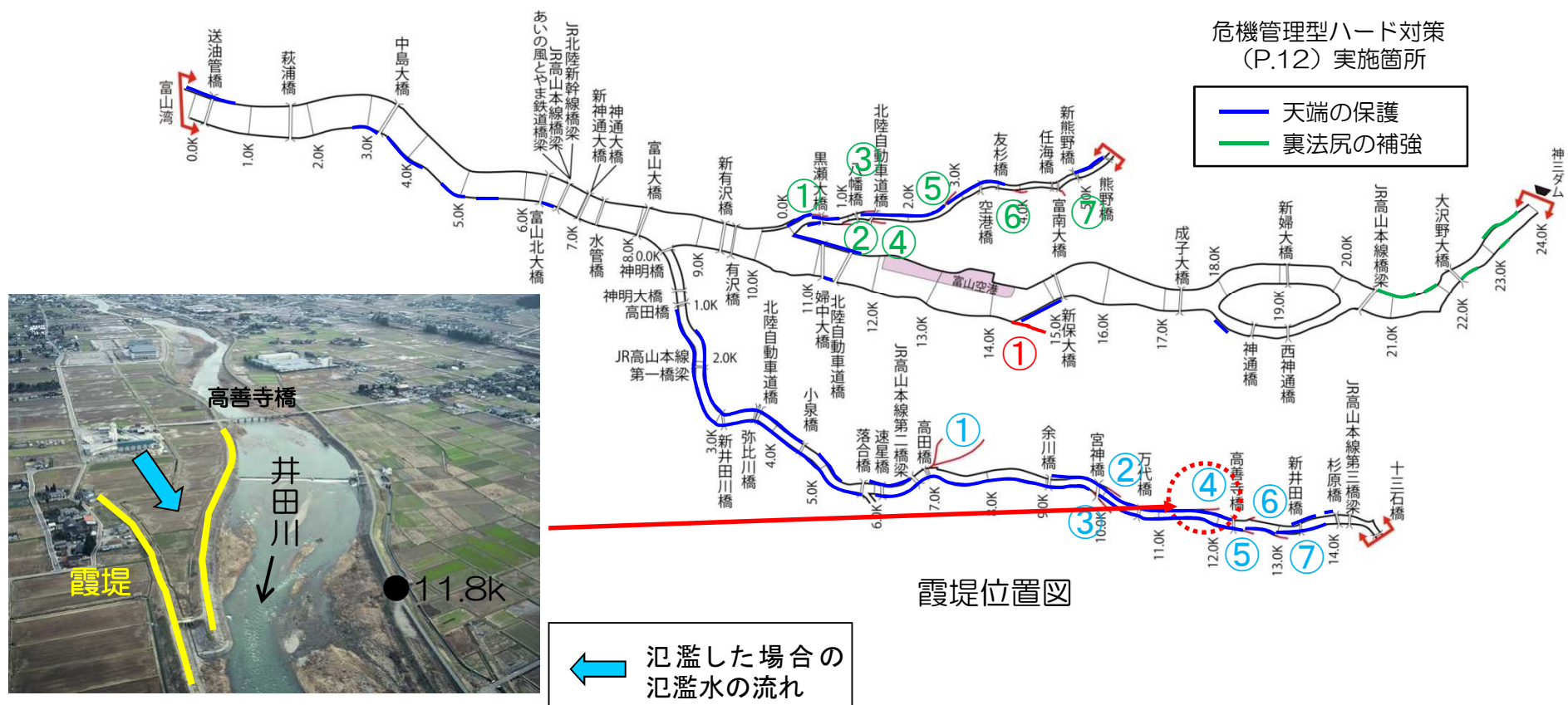
堤防裏法尻をブロック等で補強



7.霞堤の機能維持、保全

(2) 減災の取り組み

◆ 現存する霞堤については、開口部を現状のままとし、現有の機能を維持する。



8.洪水氾濫に備えた社会全体での対応

(2) 減災の取り組み

(住民等の主体的な避難の促進、的確な水防活動の促進 等)

- ◆ 住民が自らリスクを察知し主体的な避難につながるよう情報発信等の取り組みを進めるとともに、市町村の洪水ハザードマップの見直し支援や住民への普及促進の支援を積極的に行う。
- ◆ 国、流域自治体、企業等からなる水防連絡会を設置し、出水期前に重要水防箇所の合同巡視や情報伝達訓練、水防技術講習会、水防訓練等を実施し、危険箇所の確認や水防技術の向上を図る。



住民向けパンフレット
作成の事例



「まるごとまちごと
ハザードマップ」の事例



合同巡視



水防工法研修

水防連絡会の実施状況
(合同巡視、水防工法研修)

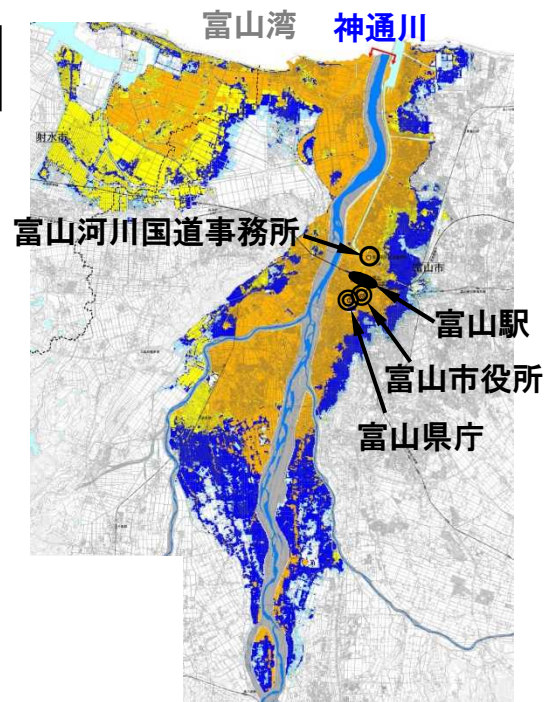
8.洪水氾濫に備えた社会全体での対応

(2) 減災の取り組み

(住民等の主体的な避難の促進、的確な水防活動の促進 等)

- ◆ 浸水継続時間を踏まえ、早期に社会経済機能を回復させるための大規模水害を想定した排水計画（案）作成等の取り組みを推進する。
- ◆ 災害時の水防活動や応急復旧活動を円滑に実施するため、関係する自治体と連携しながら、排水ポンプ車、照明車等の災害対策機械を活用するとともに、流域内の関係機関と連携して既存施設の効率的な運用を図る。

神通川浸水継続時間図
(想定最大規模)



凡例	
浸水継続時間(浸水深0.5m以上) (ランク別)	
12時間未満の区域	12時間～1日未満の区域
1日～3日未満の区域	3日～1週間未満の区域
1週間～2週間未満の区域	2週間～4週間未満の区域
--- 市区町村界	
■ 河川等範囲	
🚧 浸水想定区域の指定の 対象となる洪水予報河川	



水防倉庫の資材
準備状況 (磯部町)



排水ポンプ車



照明車

排水ポンプ車、照明車の活用

1-2. 河川環境の整備と保全に関する事項

(1) 動植物の生息・生育・繁殖環境

(1) 動植物の生息・生育・繁殖環境

◆ 現状と課題

- 神通川直轄管理区間では多様な環境が形成されており、（砂礫地、瀬・淵が連続した流れ、ワンド・細流等の局所的な水際の湿地環境）引き続き、縦断的連続性や多様性の確保に努めることが必要
- サクラマスをはじめとする多様な魚類の生息・繁殖環境となる神通川の瀬・淵等の再生を図ることを目的に自然再生事業（淵の形成、多自然流路の造成）を実施

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 多様な生物が生息・生育する良好な水環境（良好な水質を保ち、河川が本来有している多様な生物の生息、繁殖環境の保全・創出、外来種の拡大防止・抑制を推進）

◆ 整備計画における目標の考え方

- 瀬・淵、磯河原、ワンド・細流など、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる場の保全及び創出に努める。また、河道掘削や護岸等の河川整備の実施にあたっては、自然の営みを視野に入れた多自然川づくりを推進するとともに、河川水域の縦断的・横断的な連続性の確保を図り、良好な河川環境が保全及び創出されるよう努める
- 河川の上流から下流までを移動し、瀬・淵を生息・繁殖環境として利用するサクラマスをはじめとした神通川に生息する魚類の生息・繁殖環境の保全・再生を図る

◆ 整備内容（案）（工事）

9. 多自然川づくり
10. 工事による環境影響の軽減等
11. 水域の連続性確保
12. 瀬・淵等の自然再生

9.多自然川づくり

(1)動植物の生息・生育・繁殖環境

10.工事による環境影響の軽減等

- ◆ 河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する「多自然川づくり」を推進する。
- ◆ 河川環境に影響を及ぼす工事の実施に際しては、環境アドバイザーの助言・指導のもと、事前の環境調査に基づく保全措置を検討実施し、事後調査により保全措置の効果を把握し、工事による環境への影響を軽減するように努める。

根固水制設置状況



現地の土による覆土後



植生回復状況



根固水制を自然石で覆った護岸の整備、木工沈床や粗朶沈床の活用により魚類の生息環境の創出や根固水制・低水護岸を現地の土で覆土し、植生を早期に回復

護岸前面の覆土による植生早期回復の事例

濁水フェンス



河道掘削工事における環境影響の軽減例
(濁水フェンスによる濁水拡散防止)

11. 水域の連続性確保

◆ 神通川に関しては、横断工作物の設置箇所における縦断方向の連続性は概ね確保されている。しかし、神通川本川と流入してくる指定区間・水路等との間には落差の生じている箇所があることから、工事施工の際には、これら箇所について、水域の連続性確保に配慮する。

■ 神通川水系の横断工作物の状況



広田用水堰
(階段式魚道)



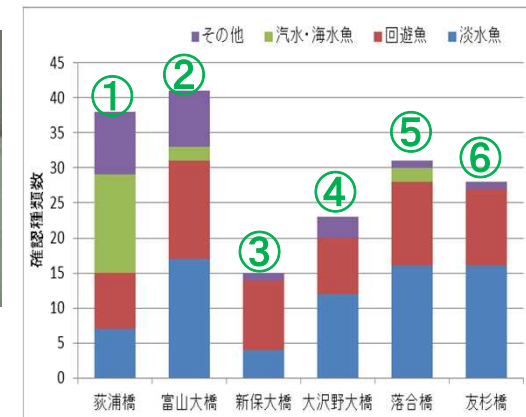
友杉用水堰 (魚道はないが、
段差が小さい)



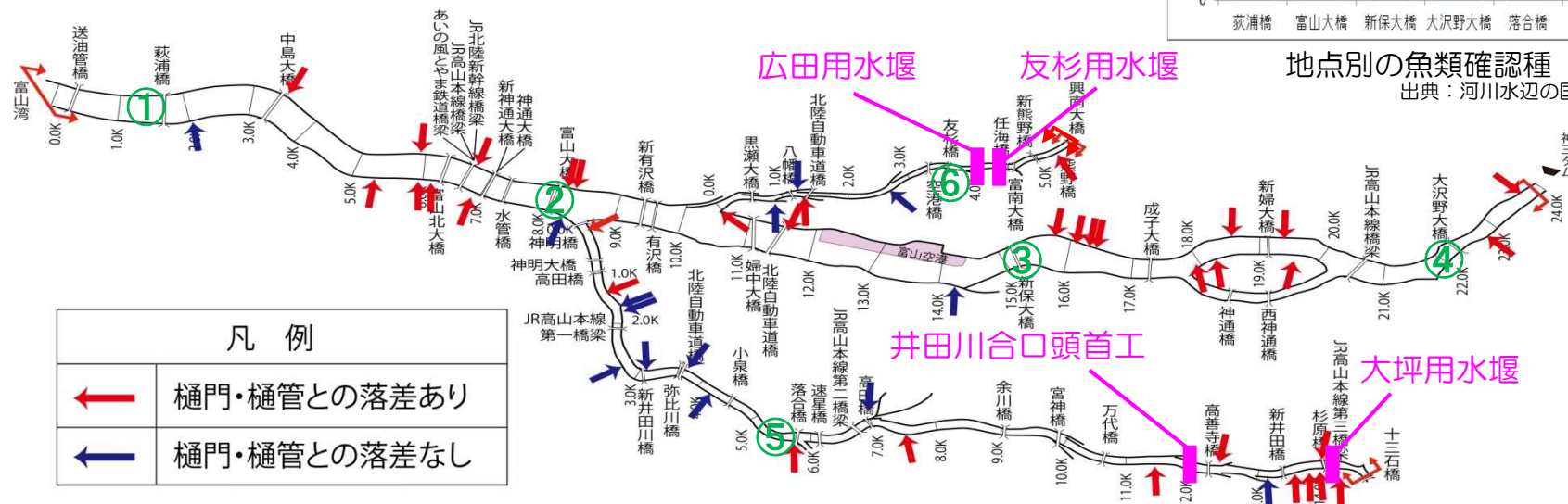
井田川合口頭首工
(階段式魚道)



大坪用水堰
(アイスハーバー式魚道)



地点別の魚類確認種
出典：河川水辺の国勢調査



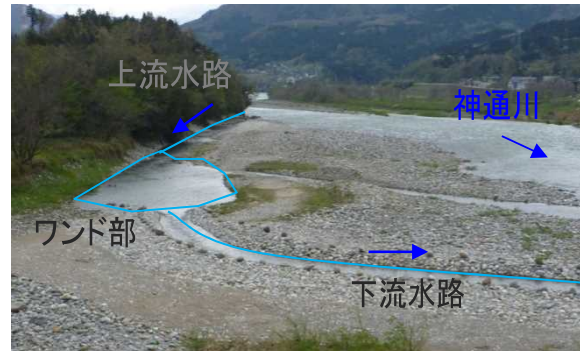
12. 瀬・淵等の自然再生

- ◆ 神通川では、サクラマスをはじめとする多様な魚類の生息・繁殖環境となる神通川の瀬・淵等の再生を図るため、引き続き、自然再生事業を推進していく。
- ◆ また、継続的にモニタリングを実施し、整備の効果及び自然環境の変化の状況等の得られた知見をもとに、順応的に整備箇所の維持及び整備内容の改善に努める。

淵の形成（水制設置）
富山市西神通地先

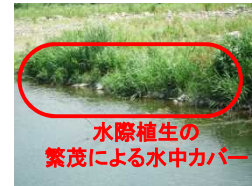
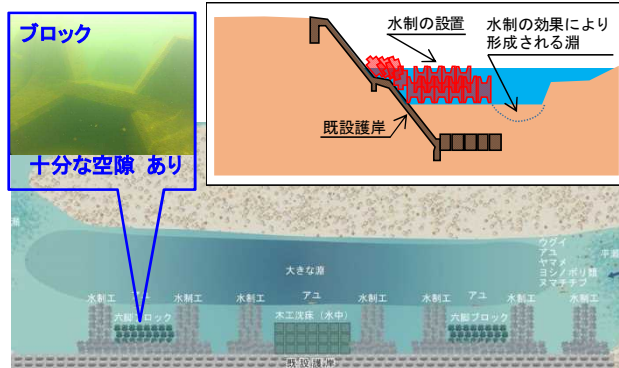


多自然流路の造成
富山市岩木新地先



主なモニタリング調査 調査項目

潜水調査（水中ビデオ撮影） （夏 2回）
採捕調査 （夏・冬 各1回）
物理環境調査（流速・水温・水深（水位）） （各季1回又は連続）
産卵床調査・湧水調査 （それぞれ6回、3回）
仔魚生息環境調査 （冬 1回）
バイオテレメトリ調査 （連続）



流速、水深調査 実施状況

2. 維持管理に関する事項

2-1. 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

2-2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

2-3. 河川環境の整備と保全に関する事項

サイクル型維持管理の実施

2-1. 洪水等による災害の発生の防止 又は軽減に関する事項

- (1) 洪水対策・堤防の安全性確保
- (2) 減災の取り組み

(1) 洪水対策・堤防の安全性確保

◆ 現状と課題

- 河川の維持・保全及び河道内の樹木を適正に管理していくことが必要
- 河川管理施設の変状に対するきめ細やかな監視、老朽化に伴う補修が必要

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 河川の整備・管理に当たってのコスト縮減、治水・環境・利用の各目的を相互に達成していく観点からの新たな技術の開発・活用

◆ 整備計画における目標の考え方

- 河川管理施設が本来の機能を発揮できるよう、施設の状態を常に把握し、適切に管理を行う。河川管理を適切に実施するため、神通川の河川特性を踏まえた調査を継続的・重点的に実施するとともに、定期的な点検により機能や質の低下を早期に発見し、必要に応じて維持修繕を行う

◆ 整備内容（案）（維持管理）

13. 河川の巡視及び点検
14. 河川の調査
15. 河道・河川管理施設の維持管理

13.河川の巡視及び点検

- ◆ いつ発生するかわからない洪水や濁水に備え、また、河川管理施設の異常やごみの投棄、船舶の係留（無許可）等を発見するために河川の巡視や点検を実施する。
- ◆ 洪水発生時には河川の巡視のほか、水文観測施設やCCTV画像等を活用することで、堤防等の河川管理施設や許可工作物の異常を早期に発見し、迅速な水防活動が行えるよう努める。



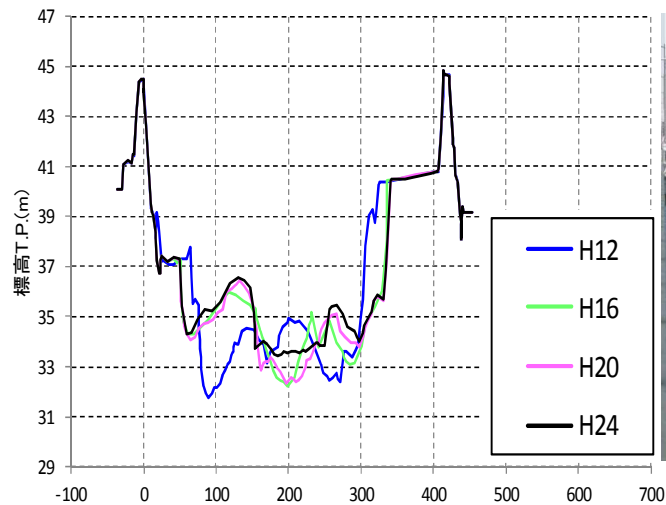
河川の巡視



CCTV画像の活用

14.河川の調査

- ◆ 河床形状の経年変化や異常箇所について適切に把握するために縦横断測量や平面測量、空中写真撮影等を定期的実施する。
- ◆ 適正な河川管理を実施していくために、降水量の観測、河川の水位・流量の観測、河川水質の調査等を継続して実施する。
- ◆ 洪水後には施設の点検や堤防漏水調査など、必要に応じた調査を実施する。
- ◆ 洪水発生時には空中写真撮影や河床材料調査など、各種調査を実施する。



横断形状の経年変化（16.6k付近）



萩浦橋水質自動観測所



洪水後の空中写真
(H16.10洪水)

15.河道・河川管理施設の維持管理

- ◆ 河道内に顕著な土砂堆積が生じた場合、河道堆積土砂の撤去を実施する。
- ◆ 樹林の成長や繁茂状況を定期的に調査し、上下流バランスに配慮しつつ、適切な樹木伐採を行い、流下能力の維持に努める。
- ◆ 堤防の亀裂や護岸の変状等を早期に発見するため、堤防の除草を行う。
- ◆ 河川巡視等により確認された変状を調査・評価し、効率的に補修を実施する。
- ◆ 許可工作物についても、設置者により適切に維持管理されるよう、河川管理者として必要な指導・助言を行う。



神通川下流部の状況
H20.11撮影



護岸の補修例
(表面Co)



堤防除草



老朽化した施設の補修例
(松川舟通り水門) 26

2-2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

(1) 流況の維持

(1) 流況の維持

◆ 現状と課題

- 神通川水系の水資源は、発電用水、農業用水、富山県や高山市等の上水道、工業用水等として利用されている
- 神通大橋地点の河川流況は至近14カ年では、正常流量（概ね41m³/s）を満足しているが、熊野川合流点より上流では、適正な正常流量が確保されているかを監視できない状況のため、縦断的な流況モニタリングを行い、流量の確保に努めることが必要
- 渇水対策が必要となった場合には、関係機関や水利使用者等と連携して、被害の拡大防止に努めることが重要

◆ 整備計画における目標の考え方

- 神通川水系河川整備基本方針に定めた流水の正常な機能を維持するための流量の確保に努める（神通大橋地点で通年で概ね41m³/s）
- 渇水時には、関係水利使用者等と的確に情報共有を行い、渇水による被害の軽減が図られるよう努める

◆ 整備内容（案）（維持管理）

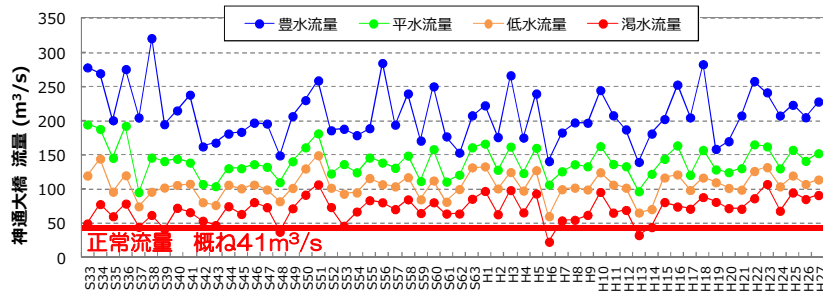
16. 流況等のモニタリング

17. 渇水時における関係水利利用者との調整

17. 渇水時における関係水利用者との調整

- ◆ 流水の正常な機能が維持されるよう、支川を含む河川の縦断的な流況モニタリングを行い、関係機関と協力して合理的かつ適正な流量の確保に努める。
- ◆ 河川流量が減少し、渇水対策が必要となった場合には、関係機関や水利用者等と連携して情報共有や調整等を行い、渇水による被害の軽減に努める。

■ 神通大橋地点の流況



- ・豊水流量: 1年のうち95日はこの流量を下回らない流量
- ・平水流量: 1年のうち185日はこの流量を下回らない流量
- ・低水流量: 1年のうち275日はこの流量を下回らない流量
- ・渇水流量: 1年のうち355日はこの流量を下回らない流量



出典：室牧ダム管理事務所



出典：室牧ダム管理事務所

H6渇水時の室牧ダムの状況

神通川渇水情報連絡会 構成機関一覧

構成機関名	
国土交通省	富山河川国道事務所
富山県	河川課、農村環境課、環境衛生課、企業局土木水道課、企業局電気課
民間	北陸電力株式会社富山支店、関西電力株式会社神通川電力所、日産化学株式会社

2-3. 河川環境の整備と保全に関する事項

- (1) 動植物の生息・生育・繁殖環境
- (2) 良好な水質の維持
- (3) 人と河川との豊かなふれあいの確保

(1) 動植物の生息・生育・繁殖環境

◆ 現状と課題

- 神通川直轄管理区間では多様な環境が形成されており、（砂礫地、瀬・淵が連続した流れ、ワンド・細流等の局所的な水際の湿地環境）引き続き、縦断的連続性や多様性の確保に努めることが必要
- サクラマスをはじめとする多様な魚類の生息・繁殖環境となる神通川の瀬・淵等の再生を図ることを目的に自然再生事業（淵の形成、多自然流路の造成）を実施

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 多様な生物が生息・生育する良好な水環境（良好な水質を保ち、河川が本来有している多様な生物の生息、繁殖環境の保全・創出、外来種の拡大防止・抑制を推進）

◆ 整備計画における目標の考え方

- 瀬・淵、磯河原、ワンド・細流など、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる場の保全及び創出に努める。また、河道掘削や護岸等の河川整備の実施にあたっては、自然の営みを視野に入れた多自然川づくりを推進するとともに、河川水域の縦断的・横断的な連続性の確保を図り、良好な河川環境が保全及び創出されるよう努める
- 河川の上流から下流までを移動し、瀬・淵を生息・繁殖環境として利用するサクラマスをはじめとした神通川に生息する魚類の生息・繁殖環境の保全・再生を図る

◆ 整備内容（案）（維持管理）

18. 河川環境のモニタリング

19. 生物の生息・生育・繁殖に配慮した管理

18. 河川環境のモニタリング

- ◆ 神通川の豊かな河川環境を適切に維持、保全していくために、その現状や経年変化を把握するための「河川水辺の国勢調査」等を実施し、それらのモニタリング結果を踏まえた神通川の河川環境の整備と保全を図っていく。



河川水辺の国勢調査の実施状況

19.生物の生息・生育・繁殖に配慮した管理

(1)動植物の生息・生育・繁殖環境

- ◆ 生物の生息・生育・繁殖に配慮した管理を行い、神通川の特徴的な環境の保全に努める。
- ◆ 外来種への対応としては、生態系の維持保全の観点から、河川水辺の国勢調査等を通じて外来種の生息生育実態の把握に努めるとともに、流域の関係機関と連携し、適切に対応する。



神通川20.2k付近より上流を望む



神通川で確認されている特定外来生物

(2) 良好な水質の維持

◆ 現状と課題

- 近年神通川の水質は環境基準を満足しているが、引き続き定期的に水質を把握するとともに、地域住民、関係機関等と連携を図り、現状の水質の維持に努めることが必要

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 多様な生物が生息・生育する良好な水環境（良好な水質を保ち、河川が本来有している多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出、外来種の拡大防止・抑制を推進）



◆ 整備計画における目標の考え方

- 継続的な水質モニタリング及び関係機関との連携を図りながら、適切な監視体制を確保し、良好な水質の維持を図る



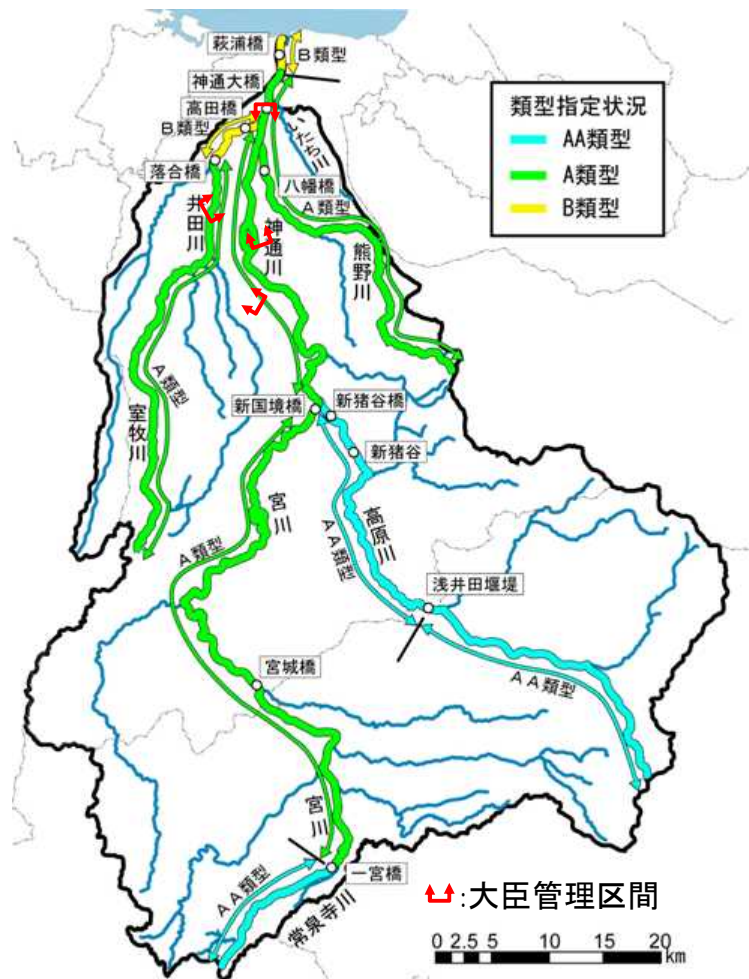
◆ 整備内容（案）（維持管理）

20. 水質調査の継続実施等

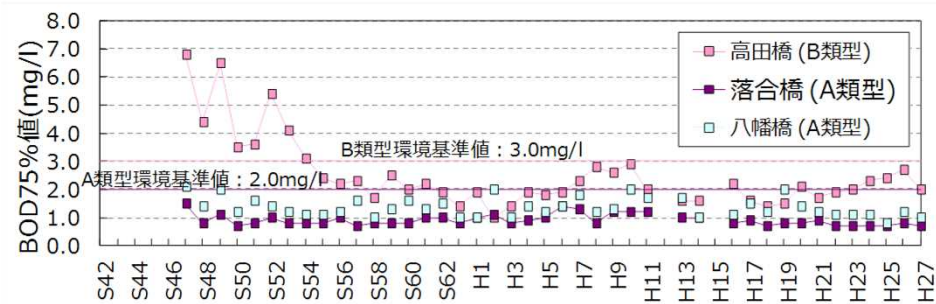
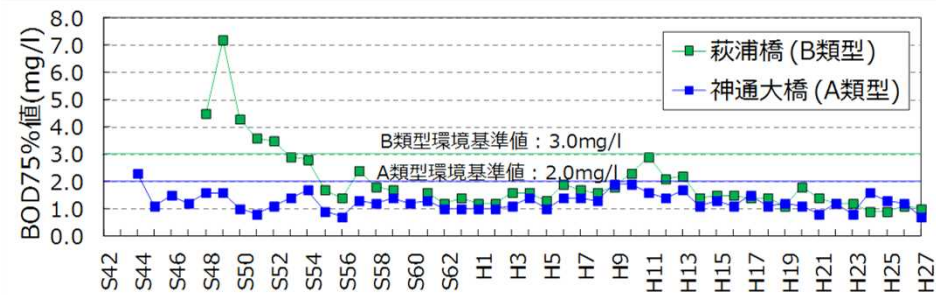
21. 水質事故時の対応

20.水質調査の継続実施等

◆ 神通川の水質は環境基準を満足し、良好な状態にあることから、引き続き定期的に水質を把握するとともに、地域住民、関係機関等と連携を図り、現在の良好な水質の維持に努める。



水質環境基準の類型指定状況



BOD75%値の経年変化（上：神通川、下：井田川・熊野川）



神通大橋



萩浦橋

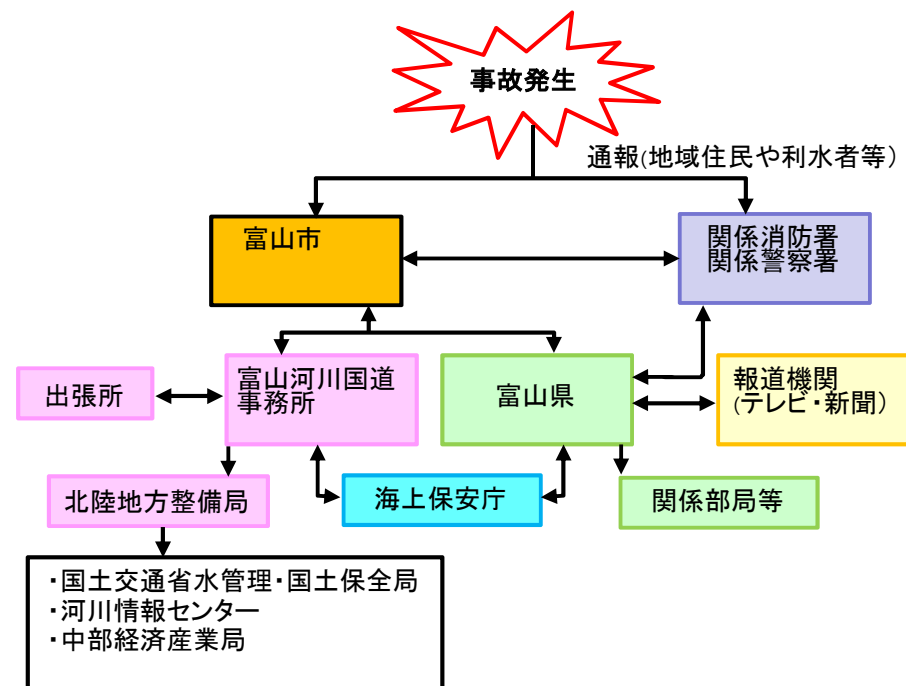
採水作業の状況

21.水質事故時の対応

- ◆ 水質事故による利水及び環境への被害を最小限にとどめるため、「富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会」を通じて迅速な情報伝達を行うとともに、関係機関と連携して水質事故の被害拡大防止に努める。
- ◆ 水質事故防止には地域住民の協力が不可欠であり、関係機関が連携して水質事故防止に向けた取り組みを行う。



オイルフェンス設置訓練の実施状況



水質事故情報通報連絡系統図 (富山市の場合)

(3) 人と河川との豊かなふれあいの確保

◆ 現状と課題

- 西派川河川敷をスポーツエリア等として整備した水辺プラザの他、沿川はイベントや散策、スポーツ、釣り等様々な利用が行われている
- 神通川ではゴミの不法投棄が問題となっており、河川巡視等による管理体制の充実が必要
- 神通川、西派川、井田川、熊野川では、外来生物法における特定外来生物8種が確認されており、将来的に生態系に影響を及ぼす恐れがある

◆ 地域住民からいただいたご意見に基づく検討の方向性

- 治水上の観点や周辺の河川環境に配慮しつつ、地域の要望に応じた様々な河川空間の利用促進

◆ 整備計画における目標の考え方

- 地域住民の生活基盤や歴史、文化、風土を形成してきた神通川の恵みを活かしつつ活力ある地域づくりに資するよう、適正かつ安全で快適な河川敷地の多様な利用がなされるよう努める
- 河川とのふれあいの場、川の教育価値・文化価値を活かしながら環境学習ができる場、憩いの場としての整備・保全を図るとともに、住民参加型の河川管理を推進する

◆ 整備内容（案）（維持管理）

22. 河川空間の適正な利用の促進
23. 地域と連携・協働する維持管理
24. 環境学習への支援

22.河川空間の適正な利用の促進

- ◆ 河川空間の適正な利用を促進するため、占用にあたっては、関係自治体等の意見を聴いた上で許可を行う。
- ◆ 河川敷地において流水の疎通に支障のおそれがある不法な占用、耕作及び工作物の設置等の不法行為に対して適正な監督・指導を行う。



不法行為への指導状況



不法投棄に対する対応状況
(井田川左岸13.4k)

23.地域と連携・協働する維持管理 24.環境学習への支援

(3)人と河川との豊かなふれあいの確保

- ◆ 河川が「地域共有の公共財産」であるという認識のもと、ボランティアサポートプログラムの活用など、「住民参加の河川管理」を通して、河川整備や維持管理の必要性などの認識を深めていただくような取り組みを推進する。
- ◆ 子供たち自身が河川環境、治水の歴史、川と人々の関わりなどを学べるよう、学校の教育活動やNPO等による取り組みに対して様々な支援を行う。
- ◆ 地域に根ざした川づくりを進めるため、地域住民への「出前講座」の実施や自治体職員に対する研修の開催などにより、必要な知識や情報の提供を行うとともに、地域住民の方々からの意見聴取に継続的に取り組む。

H28.6.5 「河川環境を守り隊」による活動



ボランティア・サポート・プログラムの活動状況

H28.12.6 桜谷小学校



出前講座の実施状況

H28.6.28 熊野川左岸3.8k付近



水生生物調査の実施状況

25. サイクル型維持管理の実施

- ◆ 河川の維持管理にあたっては、具体的な維持管理の目標となる「神通川水系河川維持管理計画」に基づき、計画的な維持管理を継続的に行うとともに、河川の状態把握、状態の分析・評価、評価結果に基づく改善等を一連のサイクルとした「サイクル型維持管理」によって効率的・効果的に実施する。
- ◆ 神通川は急流河川であるという河川特性を踏まえ、河道内における樹木の繁茂、河床勾配の変化点における土砂の堆積、河岸の洗掘、護岸等の施設の変状等を重点的に把握し、適切な維持管理に努める。

■ サイクル型維持管理のイメージ

